



事業者：九州を拠点とした青果物物流構築のための協議会

計画概要

香港向け等の甘藷・メロンについては、資材の改良やコンテナ内の配置の最適化を行うとともに、重量野菜については損傷率が高い時期における対策を検討することで、廃棄率の低減を図り、青果物の年間輸出額の増加を目指す。

目標

協議会メンバーによる青果物の年間輸出額を
2030年3月までに30%増加させる。

食料システムへの寄与

輸出時のロス率低減に向けた取組により効率的な輸出モデルを確立し、輸出の拡大を図ることで、海外消費者の日本産青果物の購入機会の増加、生産者の販路拡大及び収益向上につなげる。

また、食品ロスの削減や物流の効率化を通じて、国内消費者への青果物の安定供給に寄与するとともに、持続可能な青果物流通体制の構築を目指す。

計画のイメージ

○以下の取組により、廃棄率の低減を図る



- 甘藷輸送における除湿剤や通気性包材の導入、輸送ルートの見直し



- 物流ルートや産地別の損傷率分析、コンテナ内配置の最適化及び空輸・船便の比較検証



- 九州拠点での検品等による夏場の損傷率低減対策の検討

(2026年6月17日認定)